TOHOKU

EPO通信

［エポ］

VOL. 28

2018年12月

東北環境パートナーシップオフィス

網張の森の上にそびえる鎌倉森からの展望

CONTENTS

- 特集
  宮城県南三陸町の海「志津川湾」がラムサール条約湿地に登録
- ECO＆復興支援グッズ
- 東北６県EPOトピックス

東北環境パートナーシップオフィス（EPO東北）とは

東北環境パートナーシップオフィス（略称：EPO東北）は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的としています。さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協働できるよう、地域の環境情報の発信と交流機会の提供を行い、活動の広がりや新たな取組創出のきっかけ作りを担います。たくさんの人がEPO東北をきっかけに出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さまのパートナーシップ作りを支援します。

特　集

宮城県南三陸町の海「志津川湾」がラムサール条約湿地に登録

南三陸町農林水産課

平成30年10月18日、南三陸町の海「志津川湾」が、ラムサール条約湿地として正式に登録され、同23日にドバイ（アラブ首長国連邦）で開催されたラムサール条約締約国会議において認定証が授与されました。日本では52番目、東北沿岸域では初の条約湿地です。また、海藻藻場（後述）の貴重さが認められての登録は、国内初となります。

今回は志津川湾の自然と登録に関する取り組みについて紹介します。

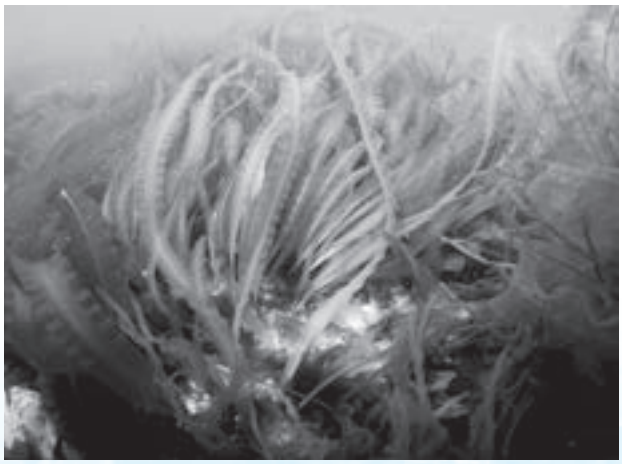
●志津川湾の自然

志津川湾は、宮城県北東部沿岸の寒流と暖流が混ざり合う独特な海洋環境の中にあります。また、湾を取り囲む山々の連なり（分水嶺）が町境となるため、町に降った雨は川を伝い、山や里からの栄養を取り込みながら志津川湾に注ぎ込みます。こうした物理的環境を背景に、志津川湾には多種多様な生きものが暮らしています。

特に、海藻類は現在までに200種以上が確認されています。また、海の中で花を咲かせ実をつけるアマモなどの海草（うみくさ）類も確認されています。海藻の森や海草の草原は藻場と呼ばれ、様々なタイプの藻場が湾内に見られます。その中でも、冷たい海を代表するコンブ類「マコンブ」の藻場と暖かい海を代表するコンブ類「アラメ」の藻場が同じ場所にあるのは世界的にも珍しく、志津川湾の自然のユニークさの象徴です。

藻場は海の生きものたちにとって、餌を食べる場所として、隠れ家として、子育てを行うゆりかごとして重要な役割を果たします。また、海藻自身も、ウニやアワビの大切な餌になります。藻場は生態系を支える縁の下の力持ちであり、私たち人間にとっても豊かな恵みを与えてくれる大切な存在です。

志津川湾には毎年オジロワシやオオワシなどの貴重な水鳥が冬を越しにやってきます。その中でも、遠く北方のシベリアから志津川湾へやってくるコクガンは、国の天然記念物と絶滅危惧種（環境省・宮城県：絶滅危惧II類）に指定されている希少な水鳥です。コクガンは世界に8000羽ほどしか生息しておらず、そのうち100羽～200羽が毎年志津川湾に



マコンブ

アラメ（写真提供：青木優和）

コクガン

冬を越しに訪れます。志津川湾は、波が穏やかな環境や、餌となる海藻や海草を育む藻場が十分にあり、コクガンたちが安心して冬を越すことができる大切な場所なのです。

●志津川湾のラムサール条約湿地への登録

ラムサール条約の正式名称は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」です。湿地は多くの生きものの住みかとして重要であり、農業や漁業を行う場所として私たちの暮らしも支えています。ラムサール条約は、「湿地の保全」、「賢明な利用（ワイズユース）」、「交流・学習」を推進する条約です。ここでいう「湿地」は、湿原や湖沼、水田のほか、干潟やサンゴ礁、藻場などの海域も含みます。

ラムサール条約湿地登録への動きは、2010年９月、志津川湾が環境省の選定するラムサール条約潜在候補地に選定されたことに始まります。翌年３月の東日本大震災により、一度は登録に向けた活動を中断せざるを得ませんでしたが、５年後の2016年には活動が再開されました。住民説明会やシンポジウム、志津川湾の自然に関する教育・普及活動を通して、多くの方々からの登録への賛意を頂きました。

志津川湾が潜在候補地に選定された背景には、以前から南三陸町に訪れた多数の研究者や町の職員による研究成果が蓄積されていたという経緯があります。これまでの調査から、志津川湾には動物553種、海藻・海草類209種が確認され、生物多様性の高さが科学的に示されています。

これらの活動の成果が実を結び、2018年10月18日、志津川湾はラムサール条約事務局が管理する「国際的に重要な湿地に係る登録簿」に正式に掲載されました。

●KODOMOラムサール in 南三陸町の開催

志津川湾のラムサール条約湿地への登録を記念して、平成31年２月９日（土）から11日（月・祝）まで「KODOMOラムサール in 南三陸町」を開催します。「KODOMOラムサール」とは、全国のラムサール条約湿地で活動する子どもたちが集まり、湿地をテーマに様々な学習・交流のイベントを行う環境教育プログラムです。これまで、日本各地のラムサール条約湿地で開催されてきました。

KODOMOラムサール in 南三陸町では、南三陸町の子どもたちと全国の湿地で活動する子どもたちが一緒に、南三陸町の魅力が詰まったプログラムを体験します。町内の子どもたちが全国で活動する子どもたちから刺激を受け、幅広い視野を持ち、自分たちの住む町の自然や文化の素晴らしさを実感する貴重な経験となるはずです。

●今後の取組み

ラムサール条約の目的にならって湿地を賢く利用し、交流・学習に役立てることによって、これまで以上に自然と手を取り合って暮らしていくことが、これからのまちづくりの大きな目標となります。

私たちの生活を豊かにする志津川湾の恵みを未来の世代に残していくために、私たちにできることは何か、地域全体で考え、行動していくことが求められます。

南三陸の海「志津川湾」

ECO&復興支援グッズ

環境再生活動の支援につながる、または復興支援につながるエコグッズ（マイバッグなど）

01. Mi amas TOHOKU「山に行きたいバッグ」「Mi amas TOHOKUバッグ」

東北の魅力を伝える仙台の編集プロダクション「シュープレス」と東京のクリエイティブユニット「kvina（クビーナ）」が一緒に「Mi amas TOHOKU（ミ アーマス トウホク）」というプロジェクトを立ち上げ、できたコラボ商品です。震災後に活動を始め、東北の企業に制作を発注し世の中に商品を送り出すことで、東北経済を応援しています。売上の一部は、東北の被災地（震災だけでなく自然災害も）へ義援金・復興支援金として毎年寄付しています。

■価格　各1,404円（税込）

■問い合わせ先／**シュープレス株式会社**
〒980-0802　仙台市青葉区二日町7-32勾当台ハイツ213
TEL：022-715-8511
FAX：022-721-0291
Email：order@shoepress.com
https://www.shoepress.com/

02.「復興の光 ネックレス＆ピアスセット」スワロフスキー

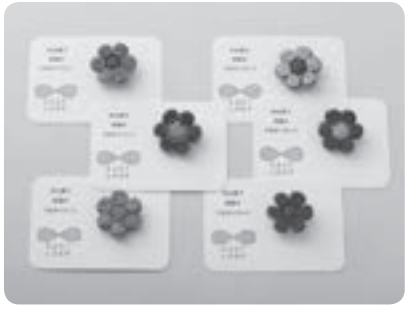
スワロフスキー社が被災地支援としてNPO法人とコラボしたアクセサリーのセットです。サンキャッチャーは、被災地に希望の光をもたらすアクセサリーです。

■価格　10,800円（税込）

■問い合わせ先／**NPO法人絆プロジェクト三陸**
〒022-0005　岩手県大船渡市日頃市町字中板用76-6
TEL：0192-47-3019
FAX：0192-47-3019
Email：iinfo00@kizuna-sanriku.jp
http://www.kizuna-sanriku.jp/

03. EAST LOOP　花ブローチ

被災地に仕事で笑顔を！！「働く」ことを通し「ほめられること」「役に立つこと」「必要とされること」は生きて行く力になっていくと私たちは信じています。小さな手仕事で東北の被災地と世界を結ぶプロジェクトです。被災地の作り手さんが心をこめて花ブローチ編みました。商品代金の50%が生産者グループ（東北クロッシェ村）に届きます。



■価格　864円（税込）

■問い合わせ先／**合同会社　東北クロッシェ村**
〒028-0776　岩手県遠野市上郷町板沢11-6-6 旧上郷中学校内
TEL：0198-68-3770
FAX：0198-68-3770
Email：info@tohoku-crochet.com
http://tohoku-crochet.com//index.php

東北6県TOPICS

青森 AOMORI

陸奥湾のホタテを高温障害から守ろう

豊かな陸奥湾は、温暖化の影響で海水温が上昇、基幹産業であるホタテの養殖が難しくなりました。周辺の山に広葉樹の樹木を植え、海を守る活動です。

陸奥湾では、八甲田山系の豊かな広葉樹の森の恵みを受けて、山・川・海の豊かな循環型の環境が成立しています。植樹活動を通して陸奥湾周辺の森と海との関係を理解し、市民皆で陸奥湾を守っていく事の必要性を知っていく意味で、この「陸奥湾のホタテを高温から守る植樹祭」は大切だと思っています。

特に「むつ湾」は現在、下記の問題や課題を抱えています。

■私達の豊かなライフスタイルを求めた結果、川を伝わって陸奥湾は大変汚れが増えている。(合成洗剤等の生活排水が多い)

■農業用排水が流れてきて、農薬等の化学薬品が蓄積されている。

■プラスチックごみが増え続けている。

■温暖化問題で、青森県が30℃を超える夏場が多くなり、海水温の上昇を、陸奥湾の自然循環システムだけでは、補えなくなっている。津軽海峡から入る海水を自然循環するシステムが難しくなってきている。などの課題がある。

今は昔と違い、環境問題は、一部地域の問題ではなく、多くの人間が環境問題を引き起こしているという意識にたって、この地球環境を守っていこうという行動になってもらいたいと願っています。そのシンボルとして『陸奥湾の周辺の森に広葉樹の木を植えよう』の意識が広がることが目標です。

平内町茂浦の社会貢献の森での植樹風景

陸奥湾のホタテを高温から守る植樹祭実行委員会
http://preserve.shirakami.gr.jp/
■〒030-0947 青森市浜館字科86-1
■TEL：017-743-8314 ■FAX：017-772-9824 ■Email：shokujusai@shirakami.gr.jp

岩手 IWATE

自然の中で輝きを取りもどす子どもたちと親

十和田八幡平国立公園の豊かな自然の中で親子に焦点をあて
体験活動を進める網張ビジターセンターの取り組み

国立公園の訪問者に自然情報や自然体験の場を提供している網張ビジターセンタースタッフの間での会話「最近、国立公園に来る子どもって少なくない？」「そう言えば、シニア層がほとんどだよね」。さらに、環境教育で訪れる地元の小学生たちが散策路で虫に出会うと「チョー気持ち悪い！」「触るのムリムリ」と悲鳴を上げる場面に出くわし、これはなんとかしなければと思う気持ちが強くなってきました。

幸い、網張周辺には北日本を代表する優れた景観と多様な生き物たちが生息する環境が残されています。そこで２年前から「国立公園で楽しむ親子の自然体験」というプログラムを始めました。

今年度は６月の「プロガイドと姥倉山に登ろう」を皮切りに、７月「ナイトハイクと星空観察」と「網張・夜の生きもの観察会」の２本立て、８月「網張の森で虫の観察・クラフト体験」、９月「炭火でお米を炊いてみよう」と続き、１月には「雪と遊ぼう！網張かんじき体験」を予定しています。それぞれ地元の専門家が講師役を務め、子どもたち自身が体験し、発見する楽しさを知ってもらうようアドバイスします。参加した親からは「あんなに星を見ることに集中しているのにビックリ」「普段、小食な娘がおかわりするなんて」「子どもより自分が夢中になって虫探しを楽しんだ」といったような声が聞かれました。親子で参加することを条件にしたのは、非日常的な自然環境の中で親子が同じ体験を共有することで、お互いに新たな発見や気づきがあると考えたからです。

子ども達が貴重な自然と触れて「はっとする感動」や「沢山の不思議」、「多様な生きものに対する興味と関心」の気持ちを育てていけるようなプログラムを今後も続けていこうと考えています。

ほっこり笑顔の瞬間

網張ビジターセンター運営協議会
http://amihari17.ec-net.jp
■〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉1-2
■TEL：019-693-3777 ■FAX：019-693-3778 ■Email：amihari@vanilla.ocn.ne.jp

東北6県TOPICS

宮城 MIYAGI

震災で失われた松島湾のアマモ場再生

海洋環境の復興と海から遠のいた市民の心ケア活動

東日本大震災により松島湾内のアマモ場は壊滅的に流失し、松島湾における底質、水質、及び生物環境に大きな環境の悪化が心配され、市民が結集して平成24年２月に設立されました。私達には、後世までこの豊かな海を残していく義務が存在し、漁業者のみならず、海を利用する皆様、そして市民の皆様も一緒になって「再生する松島湾」を考え、行動して参りたいと考えております。

主な活動は、アマモ場を再生するために春にアマモの種子を採取し、採取した種子を秋まで熟成させた後に、陸上水槽に播種し育苗をします。そして、また春に育った苗を海に移植をします。別な方法として、アマモの多い海域から根ごと栄養株を採取し、アマモのない海域に移植を実施いたします。また、市民に向けて５月に「アマモ種子採取会」、夏休みの「親子で学ぶ松島湾の海辺」、10月に「アマモ種子選別会」を開催し、座学で環境保全の大切さを学習し、浜での活動を実施しています。それと、地元小学校での環境学習においてアマモの育苗など年間を通した授業を実施し、海洋環境のシンポジウムなども開催しております。

イベントの中で参加者にアンケートを取ったところ、震災後に海が怖くなったり、海に出掛ける機会が減ったり、といった言葉が多く聞かれました。海から遠ざかった市民の気持ちを、海辺の体験イベントを開催することで、また海に触れ合う気持ちを醸成したいと存じます。

松島湾アマモ場再生会議
https://matsushima-amamo.jimdo.com/
■〒985-0002 宮城県塩竈市海岸通14-16
■TEL：022-362-2220 ■FAX：022-362-2490 ■Email：ebisuya@c-marinet.ne.jp

秋田 AKITA

人と人をつなぐ「薪」

みんなでみんなの薪を集め、みんなで使う。できることを持ち寄って豊かな薪ライフを。

MAKIKORI（マキコリ）は、秋田県鹿角市、小坂町を拠点とした薪活グループです。H30年６月に本格的な活動を開始しましたが、すでにメンバーは30人を超えており、さまざまな業種の人達が「薪」という共通の趣味で、仲間との時間を楽しんでいます。

マキコリの大きな特徴は、作業に参加するとポイントが貯まり、貯まったポイントと薪を交換することができるというところです。

みんなでみんなの薪を集め、みんなで使う。そんな地域になったら、誰でも安心して冬の暖房を薪ストーブに切り替えることができます。

マキコリでは「備蓄基地」と称した薪倉庫に薪を貯めていますが、原木は主に、借り受けた山林や、閉鎖したリンゴ園、依頼のあった畑や宅地などから切り出しています。現在は現場の数が多く、作業時間が足りない状況です。

マキコリではイベントも開催しています。７月に「薪わり道場」を開催しました。薪わり師範級のメンバーが、参加者に薪わりのコツを伝授するイベントに、最新の薪わり機体験と、プランクという杉板を使ったBBQを織り交ぜ、薪三昧の一日となりました。

10月には、お隣の岩手県八幡平市で炭焼きを始めた「舘市炭焼きクラブ」との交流ツアーも開催しました。

マキコリには林業者や薪ストーブオーナーの他に、草木染作家や陶芸家、農家やゲストハウスオーナーなど、山の恵みをさまざまな形で生かせる人が参加しています。身近な資源を享受し、森に寄りそった暮らしを発信していくことで、新しい田舎の暮らし方を、ここ鹿角からお伝えすることができると思います。

MAKIKORI（マキコリ）
https://www.facebook.com/makikori2017/
■〒018-5141 秋田県鹿角市八幡平字小山61-1
■TEL：090-2020-9776 ■FAX：0186-32-2198 ■Email：makikori2017@gmail.com

山形 YAMAGATA

猛禽類をもっと身近なものに

山形県酒田市鳥海山の中腹にある猛禽類の展示施設
鳥海イヌワシみらい館（猛禽類保護センター）

鳥海イヌワシみらい館（猛禽類保護センター）は、全国に８か所ある環境省の野生生物保護センターのうちの一つです。本州では唯一の野生生物保護センターで、イヌワシをはじめとする希少猛禽類の調査・研究、普及啓発の拠点施設となっています。2010年に10周年を迎え、マスコットキャラクターの「ワッシーくん」が誕生し、「鳥海イヌワシみらい館」が愛称となりました。

鳥海イヌワシみらい館では観察会のほか、企画展示やクラフト体験イベント等を開催し、県内外から多くの子どもたちや家族連れに利用してもらっています。観察会では江戸時代の図譜を活用した観察会や、天文台とのコラボレーションなど生物業界の枠を超えた斬新な内容で開催し、多方面からの反響がありました。最近では夏休みの企画展示「鳥類施設、無謀にも恐竜を飾る」というタイトルで、鳥類と恐竜の類縁について面白おかしく展示解説し、多くの人に猛禽類や自然に興味を持ってもらえるようなしかけ作りをしました。また、ワッシーくんの着ぐるみなどを使って、大学祭や地域のイベントなどでの出張展示で、施設のPR活動と普及啓発も行っています。今年は東京ドームで開催された東北楽天ゴールデンイーグルスの試合イベントにも出展し、全国的な活動展開も行いました。

見るだけでなく体験できる館内展示も充実させていますので、ぜひ鳥海イヌワシみらい館にご来館ください。

恐竜展とイベントで活躍する「ワッシーくん」

観察会は幅広い年齢層に支持されている

鳥海イヌワシみらい館（猛禽類保護センター）
http://www.raptor-c.com/
■〒997-8207 山形県酒田市草津湯ノ台71-1
■TEL：0234-64-4681 ■FAX：0234-64-4683 ■Email：moukin@raptor-c.com

福島 FUKUSHIMA

誰一人置き去りにしない福島を目指して

市民×NGO／NPO×企業の協働で挑む福島復興

しんせいの活動は、JDF被災地障がい者支援センターふくしま（2016年活動終了）の事業の１つとしてスタートしました（2011年10月）。避難期（2011～12年）には福祉サービスを利用したことのない避難者を含めた多様な方が集う交流サロンを通し、障がいの理解や受容に力をいれました。復興期（2013～2016年）に入ると避難先で活動を再開した13の福祉事業所等×NGO／NPO×企業と協働で「障がい者の仕事」や「仕事に必要なスキルを学ぶ場」をつくりました。また、避難期からしんせいで活動してきた避難者と一緒に就労継続支援Ｂ型事業所を立ち上げ、障がいを持つ人も「仕事」で福島復興の一助を担う仕組みをつくりました。現在、福島では帰還期（強制的に避難を強いられた双葉郡の住民が故郷に戻る）を迎えてます。しかしながら、放射線量が高い、病院がない、利用できる福祉サービスが限られている。買い物ができない、孤立するなどの理由から故郷に帰ることが難しい避難者も大勢います。

震災復興から７年半が過ぎ、時間の経過とともに社会の関心も薄れゆき、弱い立場の避難者の孤立が加速度を増しています。弱い立場の避難者も社会を構成する１人として活躍する場を持ち、明るく元気な毎日を送る包摂的なコミュニティをつくるためには多くの方の協力が必要です。しんせいは震災・原発事故を機に生まれた市民×NGO／NPO×企業の協働で、これからも誰一人置き去りにしない福島を目指して活動していきます。

しんせいコミュニティガーデン

特定非営利活動法人しんせい
http://shinsei28.org/
■〒963-8022 郡山市西の内1丁目25-2
■TEL：024-983-8138 ■FAX：024-983-8138 ■Email：salon.shinsei@sky.plala.or.jp

Web-Siteのご案内

◆ お役立ち情報：環境助成金情報、エコの日一覧
◆ 随時更新：お知らせ、活動報告、日記

お知らせページでは、環境省や東北６県のイベント・募集情報を告知しています。
スタッフによるつれづれ日記、被災地や出張先のレポートが人気です！

メールマガジン登録者募集中！

発行頻度：第２週と第４週毎月２回
登 録 料：無料
内　　容：助成金・イベント情報、EPO東北の活動情報など環境にまつわるお知らせ
登録方法：EPO東北のウェブサイトより

EPO東北オフィス利用案内

◆各種パンフレットやイベントチラシの設置

環境イベントや助成金等の募集チラシ、環境にまつわるパンフレットを設置しております。自由に閲覧いただけますのでお気軽にお立ち寄りください。また、チラシ等設置をご希望の方は持参または郵送でお寄せください。

◆ミーティングルームのご案内

環境活動、震災復興支援活動のミーティングや小規模セミナーにご利用いただけます。ご希望の方は電話・メール等で事務局までご相談ください。

- 開　　館：月～金（祝日を除く）
- 利用時間：10:00～18:00
- 利用人数：12名まで

EPO東北のパートナーシップ団体

EPO東北は各県で環境活動を進める団体の協力を得て運営しています。

青森県環境パートナーシップセンター	http://www.eco-aomori.jp/
ECOリパブリック白神	http://shirakamifund.jp/
環境パートナーシップいわて	http://www.iwate-eco.jp/
環境あきた県民フォーラム	http://www.eco-akita.org/index.html
あきた地球環境会議	http://www.ceeakita.org/
環境ネットやまがた	http://eny.jp/
うつくしまNPOネットワーク	http://www.utsukushima-npo.jp/
せんだい・みやぎNPOセンター	http://www.minmin.org/
環境会議所東北	http://kk-tohoku.or.jp/
仙台広域圏ESD・RCE	http://rce.miyakyo-u.ac.jp/
環境パートナーシップ会議	http://www.epc.or.jp/

環境イベントの告知を行います！

催事情報をEPO東北のウェブサイト、メールマガジンなどでご紹介させていただきます。また、チラシを持参または郵送いただいた場合は、オフィス内に設置いたします。環境イベントを企画している皆さま、ぜひ事務局まで情報をお寄せください。

EPO東北は東北地方環境事務所（環境省）と公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）が協働して運営しています。

EPO TOHOKU
東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office TOHOKU

〒980-0014　宮城県仙台市青葉区本町3-2-23　仙台第２合同庁舎１F
TEL 022-290-7179　FAX 022-290-7181
E-mail：info@epo-tohoku.jp　URL：https://www.epo-tohoku.jp/

勤務時間：月曜～金曜日【9：30～18：00】
閉 館 日：土日祝日・お盆・年末年始

発行日：2018年12月

VEGETABLE OIL INK
GREEN PRINTING JFPI P-810021
リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。